

# 国際漁業学会 (JIFRS) 短信

<http://www.jifrs.info/>

事務局 〒631-8505 奈良市中町 3327-204 近畿大学農学部内

Tel : 0742-43-6021 Fax : 074243-6021 E-mail: mariji@nara.kindai.ac.jp

郵便振替番号 : 00100-6-26448 国際漁業研究会

三菱東京UFJ銀行富雄(トミオ)出張所 普通口座 3698979 国際漁業研究会

2011年度第1号

2011年4月28日刊

## 目次

- |                         |      |
|-------------------------|------|
| 1. 新会長あいさつ「JIFRSの目指す方向」 | 多田 稔 |
| 2. 事務局より(大会情報等)         | 松井隆宏 |
| 3. 新事務局長あいさつ            | 有路昌彦 |

## 1. 「JIFRSの目指す方向」

多田 稔(国際漁業学会会長・近畿大学)

JIFRSは国際漁業学会として新たに旅立つこととなりました。学会として若手研究者にも魅力ある学術団体として対外発信力を強化しようとするもので、IIFET(国際漁業経済学会)のニュースレターでもRenaissanceとして紹介されています。

まず、JIFRSを代表し、このたびの東日本大震災による多くの被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、早期の復興をお祈りいたします。当震災の有無にかかわらず、日本の水産業は多くの問題を抱えてきました。食料の安定供給や安全性の確保、産業としての効率化、地域社会の維持等が主要課題です。JIFRSは水産業界や行政関係の有識者にも加入いただき、実業界との相互交流を踏まえた情報発信を目指しています。

今回の震災からの地域社会の再建を考えるに当たり、水産業の健全な発展は、他産業を含めた産業連関と、消費者や今後急増する高齢人口を含めていかなる国作りを目指すかという戦略との整合性を欠くものであってはならないと考えています。我が国は明治維新、戦後の復興を経て経済大国を実現しましたが、現在の日本はその面影を失い、財政基盤の脆さが再生の制約として大きくのしかかっています。このため、一定の経済活力を維持しつつ、財政支出に過度に依存しないスマートな社会システムの構築が必要になってきます。グローバル経済の下で、途上国のキャッチアップは格段に容易になったものの、先進国からは資本と技術が流出し、GDPという物量タームで測った経済力の持続的上昇は昔日のものとなりました。活力回復のために、アメリカのように世界中から人材を集めるという方法も考えられますが、海外における日本語ブームも完全に影をひそめ、それが日本の経済力という一点に依拠したことを露呈してしまいました。

それでは、経済力に替わる国の魅力度を何に求めればよいのでしょうか。最近ではスポーツや映画・音楽等の分野では日本人が国際的に活躍する場面が増えてきました。これからは研究分野の重要性もますます高まってくると思います。また、ライフスタイルというのも新たな魅力度指標となってくると考えられます。江戸の人々の暮らしぶりは外国人を魅了したようですが、残念ながら、失業と過労死の共存、財の浪費と公共的サービスの貧困、塾産業の興隆と大学生の活力低下にみられる現代の日本的ライフスタイルを学びたいという外国人は稀だと思います。マクロ経済研究の場合は GDP の大きさや成長率が研究の重要度を示す指標であり、中国経済やアメリカ経済は世界の人々の共通関心事となります。ところが、産業区分に切り刻まれた研究分野ではどうでしょうか。もはや先進国ではサービス業が経済の大部分であり、それ以外のどの業種のウェイトも小さくなっています。したがって、漁業や水産業等のような研究分野のアイデンティティは、それが新たな国民生活の価値創造に訴える“わくわく感”を有するものや、各国に共通な問題を考える上で有益なアプローチを含んでいるところに求められると思います。自然資源の保全や有効利用に関する方法論の研究はその一つとなるでしょう。かつては IT が希望の星でしたが、未だに新幹線で東奔西走する人に満ち溢れ、その効果がモノ作りに限定されています。水産分野から IT に続く生き方革命を提言できるようなイノベーションを起こしたいものです。

JIFRS では、以上のような問題意識のもとに、国境と産業の仕切りを超えて意思疎通可能な学術研究の推進を図りたいと考えています。今後は、シンポジウムで水産業の展開に重要な課題解決に向けて多様な分野から構成される建設的な議論を行い、IIFET 等の国際学会への参加を通じて学会活動が一層活性化されることを期待しています。さらに、国際的に共有すべきサイエンスとしての研究成果を、オンラインを含めた英文ジャーナルの刊行によって発信する準備を進めているところです。会員皆様の今後の積極的な参画をお願いいたします。

## 2. 事務局より

松井隆宏（近畿大学）

先に開催された今年度第 1 回理事会において下記事項が決定いたしましたので、事務局より連絡申し上げます。

### (1) 会費の徴収について

今年度から会費の徴収を再開いたします。年会費は、一般会員 5,000 円、学生会員 3,000 円です。ジャーナル送付時に振り込み用紙を同封いたしますので、お振込をお願いいたします。今年度より、英文誌の発行も含め学会誌の発行を積極的に進めますので、できるだけお早目の入金をお願いしたいと存じます。在外会員は 2,000 円、在外学生会員は無料ですが、在外会員についても、クレジットカードでの支払いが可能な体制が整うまでは、無料といたします。

### (2) 次期大会について

今年度の大会を、8月4日(木)に、近畿大学農学部にて行うことを決定いたしました。午前中

が個別報告、午後がシンポジウムとなる予定です。なお、要旨集等は配布いたしませんので、【要旨等は、各自で事前にホームページからダウンロードをお願いいたします】。(7月20日頃に掲載いたします。)シンポジウムの内容、その他の詳細につきましては、5月中を目途に、改めて発表させていただきます。

個別報告は、1報告あたり20~25分(質疑含む)の予定です。報告希望者は、報告者の氏名、所属、および報告タイトルを、国際漁業学会事務局(近畿大学)有路昌彦までメールにてご連絡下さい(mariji@nara.kindai.ac.jp、◎は@に変えて下さい)。**【締め切りは、6月15日といたします】**。また、報告者には、7月15日までに報告要旨(40字×25行以内)を、7月28日までに当日の報告資料(当日までに改変可)を、それぞれ提出していただきます(事前に座長に渡します)。

なお、「個別報告の内容は、原則として未発表の研究成果とするが、直近に発行された本学会誌(和文・英文各誌)に掲載された(学会で未発表のもの)ものについては、この限りではない」といたします。

### (3) ジャーナルおよび編集体制について

前号でお知らせしました通り、新たに英文誌を発行することとなりました。そこで、従来のジャーナルを分割し、タイトルは、

○和文誌「国際漁業研究(Kokusai Gyogyo Kenkyu)」

○英文誌「Journal of International Fisheries」

とします。

和文誌の投稿資格は会員のみ限定し、一般会員、学生会員は掲載料無料、在外会員は掲載料5,000円(会費徴収後は3,000円)、在外学生会員は掲載料3,000円とします。英文誌は投稿資格を会員のみ限定せず、掲載料(英文校正料金含む)は、一般会員、学生会員は1ページ5,000円、在外会員は5,000円+1ページ5,000円、非会員は10,000円+1ページ5,000円とします(近日中に見直しの可能性あり)。

和文誌は、国内会員に無料で配本いたします。在外会員は、ホームページに掲載される、オンライン・ジャーナルをご利用下さい。英文誌は、希望される国内会員のみ、3,000円にて配本する予定です。また、会員に国際的な研究動向の把握を促すため、和文誌、英文誌ともに、「レビュー論文」のジャンルを新たに設けることにいたしました。

なお、今年度からの編集委員会の体制につきましては、以下のように決定いたしました。

○編集委員長：八木信行(東京大学)

○編集委員：有路昌彦(近畿大学)、黒倉壽(東京大学)、多田稔(近畿大学)、山下東子(明海大学)、森下丈二(水産庁)

### (4) 表彰について

山本賞(国内賞)の受賞規定を明確化し、以下の3賞に細分化することにいたしました。JIFRS YAMAMOTO Prizeにつきましては、変更はございません。

○功績賞：学会の活動に対して、大きな貢献のあった会員

○学会賞：書籍、もしくは一連のまとまった研究を通して、学術の発展に大きく寄与した会員

○奨励賞：おおむね40歳以下で、本学会誌に掲載された論文、もしくはそれを含む一連の研究

を通して、学術の発展に寄与した会員

なお、今年度からの学会賞選考委員会につきましては、以下のように決定いたしました。

○選考委員長：山下東子（明海大学）

○選考委員（YAMAMOTO Prize）：牧野光琢（中央水産研究所）、松田恵明（鹿児島大学名誉教授）、八木信行（東京大学）

○選考委員（国内賞）：黒倉壽（東京大学）、多田稔（近畿大学）、八木信行（東京大学）

#### （5）IIFET との協力関係

IIFET2012 タンザニア大会に JIFRS から 10 万円のファンドを提供するとともに、今回の東日本大震災に際し、IIFET2004 東京大会の現地見学でお世話になった東北地域の漁協等への義援金を IIFET 会員から受け取る準備を進めています。

### 3. 新事務局長あいさつ

有路昌彦（近畿大学）

この度事務局長の役を拝命いたしました近畿大学の有路です。これからは会員の皆様に支えられながら事務局を運営して参りますので、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

まず、先に多田会長のあいさつにもありますように、東日本大震災でお亡くなりになられた方のご冥福を祈るとともに、被災された方々の一日でも早い復興に私たちが貢献していきたいと考えております。

国際漁業学会は、グローバル化の中で生き残る強い漁業を育てていくために、具体的にどのようなことをしていくのかという課題を解決していくための場であるとも考えております。学会はアカデミズムを追求して一般化するための装置でもありますが、何よりも学問自体が世の中のためにあるものであり、産業のためにある「実学」を生み出す場でもあります。したがって、学会の方向性としては、多田会長が示されているように、現場に役に立つ研究成果を示す場でありたいと考えております。

具体的には、グローバル経済下における水産に関連する経済現象の解明、グローバル経済の動向とその影響予測というような内容から、有効な資源管理の方法の示唆、有効な政策の検討、国際交渉における我が国の戦略といった政策的な内容、経営再建方法や、マーケティング、人事、会計、財務の具体的手法の検討などといった、経営における諸問題の解決方法の示唆といった内容、水産エコラベルのような新しい仕組みに関する研究、食育や学校教育に関する新手法の提案、リスクコミュニケーションや風評被害の防止、リスク管理の方法に関する内容など、経営、経済、政策等という幅広い内容を取り扱って参ります。

このように国際漁業学会は、学会である以上アカデミズムとして十分な水準を追求することは当然ですが、学問の派閥による偏った評価を避け、あらゆる専門性を認め、公平で開かれた場とします。重要なことは世の中の役に立つか否かであり、手法の違いではないと考えるからです。同時に公平であるということは、私情で判断するのではなく、合理で判断することを最優先するということであり、これを事務局としてのポリシーとします。

会員の皆様は積極的な論文の投稿と大会への参加をお願いしたいと存じます。また新会員を募

集しておりますので、ぜひ周囲の方々にもお声かけ頂ければと存じます。編集体制の強化によって、迅速な査読と水準の向上を実現します。現時点でも数多くの投稿があり、迅速に対応して世の中に出していきたいと考えております。

また昨年度総会および今年度第1回理事会で、年度内の日本学術会議登録の申請を行うことになっておりますが、事務局一丸となって事務作業を進めさせていただきます。

それでは新しい事務局をよろしくお願い申し上げます。